

ホムベカノン
百五十ポンド海砲
右者よか 文政8年3月
中津藩 佐賀藩 佐賀藩 佐賀藩

展覧会のご案内

佐賀大学・武雄市
交流事業特別展

「佐賀を動かす～若き日の鍋島茂義と佐賀藩政～」

幕末の武雄^{ゆうしゅう}邑主・鍋島茂義^{なべしましげよし}（1800～62）といえば、佐賀藩の中でもいち早く西洋科学技術に関心を持ち、戊辰戦争で活躍した強力な武雄軍を作りあげたことで知られています。また茂義は、佐賀藩トップの「当役^{とうやく}」に若くして就任しました。しかし、33歳で当役を辞任して以降、藩政の重職に就かなかったためか、茂義が佐賀藩政にどのように携わったのかは詳しい研究が進められていませんでした。

佐賀藩政における茂義の役割を明らかにするため、令和4年度より佐賀大学地域学歴史文化研究センターと共同研究を実施してきました。今回の展示ではその成果をご紹介します。

会場 武雄市図書館・歴史資料館 蘭学・企画展示室 観覧料 無料

会期 2月8日(土)～3月9日(日)

開館時間 日曜日～木曜日：9時～17時
金曜日・土曜日：9時～18時 ※会期中無休

Gallery Talk 学芸員による
展示解説



2月15日(土)
3月8日(土)
14:00～

EVENT 企画展講座「茂義と藩主齊直・直正」

開催 3月1日(土) 14:00～

講師 伊藤 昭弘 教授（佐賀大学地域学歴史文化研究センター長）

会場 武雄市図書館・歴史資料館
メディアホール

募集開始 2月5日(水) 9:00～ 定員 40名 ※先着順

申込み TEL0954-28-9105【歴史資料係(9:00-17:00)】

展示資料
のご紹介

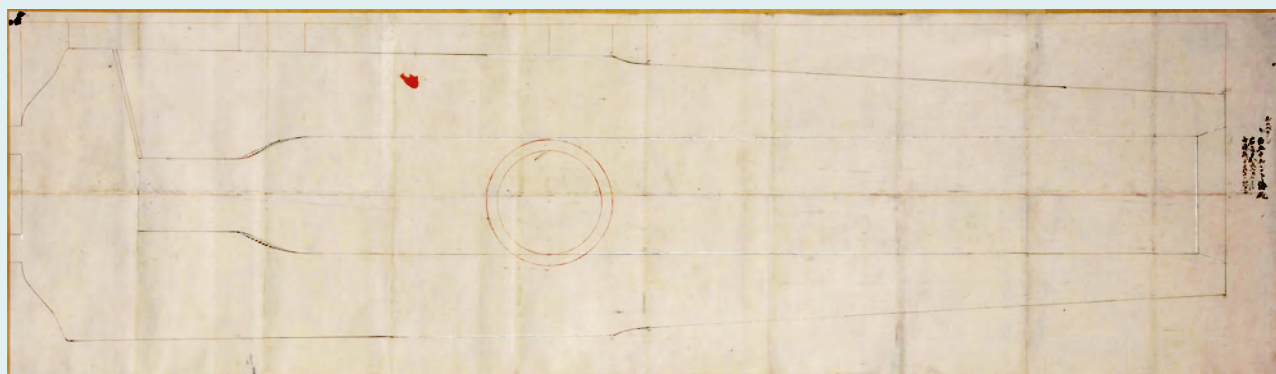


◀御日記草書

文政8(1825)年

武雄鍋島家資料(武雄市蔵)

武雄鍋島家の佐賀屋敷の記録で、武雄鍋島家当主の行動が詳しく書かれています。佐賀藩政における鍋島茂義の役割を明らかにする資料の一つです。



▲ボンベカノン150ポンド海砲
(国重要文化財)
武雄鍋島家資料(武雄市蔵)

武雄に残る大砲の切形^{きりがた}(型紙のようなもの)の一つで、実物と同じ大きさのボンベカノンが描かれています。ボンベカノンは破裂弾^{はれつだん}を発射する新式の大砲で、ペキサンス砲とも呼ばれます。この図のものは150ポンド(約68kg)の砲弾を使用します。嘉永^{かえい}2(1849)年、武雄は同様の切形を佐賀藩主・鍋島直正^{なごまさ}に献上しています。

